

花と緑のぐんまづくり通信

問い合わせ 都市施設課 (☎@2332)

<https://www.city.fujioka.gunma.jp/hanamidori/>



東京 2020 オリンピック聖火リレー&花と緑のぐんまづくり 2020 in 藤岡
飾花ボランティアを募集します。

市民の皆さんと一体になり、「花と緑と笑顔あふれるまち”ふじおか”」として聖火ランナーや多くの観光客をお出迎えするため、飾花ボランティアを募集します。皆様のご協力をお待ちしています。

①東京 2020 オリンピック聖火リレー 飾花ボランティア

日時 3月14日(土)午後1時～4時30分
会場 藤岡歴史館
内容 花の地上絵「笑う埴輪」(花苗の植付け)、ハンギングバスケット、プランター作り
対象 市内在住・在勤・在学の個人または団体
持ち物 汚れてもよい服装、タオル、飲み物
申し込み 当日会場へ
問い合わせ 花と緑のぐんまづくり藤岡市実行委員会事務局(都市施設課内☎@2332)へ



②花と緑のぐんまづくり 2020 in 藤岡 飾花ボランティア

日時 4月11日(土)午後1時～4時30分
会場 ふじの咲く丘
内容 大花壇(花苗の植付け)、ハンギングバスケット、プランター作り
対象 市内在住・在勤・在学の個人または団体
持ち物 汚れてもよい服装、タオル、飲み物
申し込み 当日会場へ
問い合わせ 花と緑のぐんまづくり藤岡市実行委員会事務局(都市施設課内☎@2332)へ



3月に入り、暖かい日差しに春の訪れを間近に感じられるようになりました。日本の春を象徴する桜。桜の開花は気温が大きく影響していることをご存知でしょうか。桜の開花時期を簡単に予想する方法として「600℃の法則」というものがあります。これは2月1日から毎日の最高気温を足していったら600℃に達した頃に桜が開花する、冷え込みが十分でない桜



お花見はいかがが？



耳より情報

知って得する情報満載♪

の開花時期は遅くなるようです。テレビや新聞などで見かける桜の開花予想は、平成21年までは気象庁が発表していましたが、それ以降は民間気象事業者が独自の計算式で開花を予想。近年ではAI(人工知能)を活用して桜の開花時期を予想しているそうです。

今年の2・3月は平年並みかやや暖かくなる予報で、平年(3月31日)より少し早い開花となるようです。ソメイヨシノは開花から5～7日で満開となり、満開から1週間ほど楽しむことができます。

市内にはお花見スポットがたくさんあります。皆さんお好みに合わせて出掛けてみてはいかがでしょう。

- ＊お花見スポット
- ＊ふじの咲く丘(藤岡)
- ＊七興山古墳(上落合)
- ＊白石稲荷山古墳(白石)
- ＊土と火の里公園(上日野)
- ＊桜山公園(三波川)



～春場所で初土俵～

羽咋市から大相撲の舞台へ

羽咋市吉崎町出身の深井拓斗さん(22歳・東洋大)が、大相撲の舞台へ進出することが決まりました。

深井さんは、小学2年生から本格的に相撲の練習をはじめ、3・4・6年生のときに羽咋市の唐戸山相撲場で開催されるこども相撲大会で優勝、中学3年生のときに全国中学校相撲選手権で優勝。大学進学後は、アマチュア相撲の最高峰と位置付けられる全日本相撲選手権で、1年生ながら準優勝を果たしました。

3月の春場所で、初土俵を踏む予定です。テレビで見られるのはまだ先になりますが、藤岡市の皆さんも、ぜひ応援をお願いします。



山辺羽咋市長と握手を交わす深井さん(中央)

ふじおか Culture

～藤岡の文化を探る～ No.48

問い合わせ 文化財保護課(☎@5997)

高山社跡「外便所」

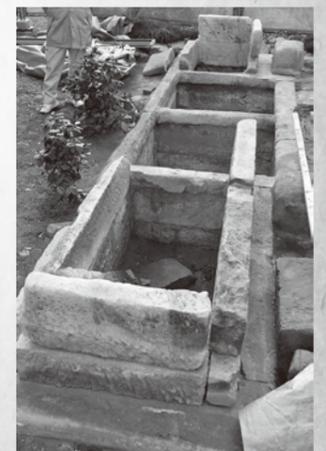
～実習生の共同生活の設備～

高山社跡では養蚕技術を学ぶため、多くの実習生が集まり、共同で生活をしていました。そのため実習生の共有設備の一つとして「外便所」があります。切妻屋根椽瓦葺の木造平屋で、中央に約2.8mの広い小便所と東側に2室、西側1室の計3室の大便秘室を備えた大型の集合便所です。便槽は牛伏砂岩截石の石組みで造られていました。特に東側の便槽には長く大きい石材が主要部材として使用されており、このような構造の外便所は類例がなく、多くの実習生が利用することを想定して造られたものと考えられます。

建物の壁面には数多くの落書きが描かれており、詩や似顔絵などが確認されました。この他、年号も確認され古くは大正9年とあり、最も多いものは大正14年でした。これらから大正時代の実習生が書き残したものと想定さ

れ、多くの実習生が共同生活しながら養蚕を学んでいたことを実証できます。

建築年代は、図面史料「家相吉祥図」(明治24年)に記されていることから明治24年以降に建てられたと想定されていますが、痕跡調査や史料の検証により、明治末期から大正初期に現在の構造に建て替えられたと考えられています。またこのことは建築部材の調査結果ともほぼ合致しています。



便槽の石組み